

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「高い志」を持ち、「真のリーダーシップ」を発揮しながら世界で活躍する人物を輩出する学校。

【生徒に育みたい力】

- 基礎・基本の充実と深い学びを通じて未来を拓く力を養い、「高い志」を持って世界に貢献できる有為な人物を育成する。
- ハイレベルな授業を通じて進路実現を可能にする高い学力を養成すると同時に、学校行事や部活動への積極的な参加を奨励し、たくましい人間力を育成する。
- 知的探究心をもって自主的に学習する力を養成すると同時に、互いに協力しつつ切磋琢磨することを通じて、優れたチームワーク意識と高い自治能力を育成する。

2 中期的目標

- グローバルリーダーズハイスクールとしての特色づくりのため、3つの教育目標を深化させる取組みとともに教員の授業力向上のための取組みを実践する。

1 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築

- (1) グローバルに視点を置いた取組みを継続発展させる。
 - ア 海外宿泊野外行事及びその事前学習、事後学習を通して多様性受容力を鍛え、コミュニケーション能力を高める。
 - イ 英語教育の内容をより一層充実させる。
- (2) 「高い志」を涵養し持続させるための取組みを継続発展させる。
 - ア 卒業生人材ネットワークを拡大し、卒業生による支援体制を強化する。
 - ① 大学教授、企業等で活躍する卒業生等による「卒業生講座」「学問発見講座」。
 - ② 京都大学を中心とした「卒業生研究室訪問」。
 - ③ 関東方面への大学見学会「東京スタディツアー」。
 - ④ 第1学年対象の「スプリングセミナー」。
 - ⑤ 第2学年対象の「オータムセミナー」。
 - イ 課題研究等を通して主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせ、大学での学びにつなげる。

※東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数合計（平成29年度103名）を平成30年度に120名以上に戻し、以降それを維持する。

※高等学校卒業時の進路選択について納得している生徒の割合92%以上を維持する。

2 「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築

- (1) 授業重視と自学自習の意識を高める。
 - (2) 3年間を通した育成計画「北辰プロジェクト」を充実させるとともに、それに基づいて生徒にめあてを提示する。
 - (3) 学習と部活動・学校行事の両立への意識を高める。
 - ア リーダー育成研修を継続させる。
 - イ 理学療法士による部活動サポート事業を継続発展させる。
- ※1, 2年生の一年間の読書量（平成29年度一人当たり平均11冊）について、平成30年度以降も10冊以上を維持する。

3 「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築

- (1) 学校行事を中心に「自主自律の精神」を育成するシステムを充実させる。（違いを認め共に生きる力、協調性、豊かな感性）
- (2) 部活動・同好会活動を中心に「自主自律の精神」を育成するシステムを充実させる。（健康・体力の向上）
- (3) 生徒会活動を中心に、生徒自らが規範意識やモラルを高めることができる取組みを実施する。

※遅刻件数（平成29年度生徒一人当たり平均年間2.7回）を2019年度までに生徒一人当たり平均年間1.5回にする。

4 教員の授業力向上のためのシステムの構築

- (1) 教科会議の充実（教科の目標設定と総括、研究授業）・相互授業見学の充実・大学等との連携の深化
- ※授業観察の際の生徒アンケートにおける授業信頼度平均88%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成31年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒版】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」という問いに対する肯定的な回答は、昨年と同様92%と高い数値を示している。高大連携事業をさらに充実させたこと、また生徒自身も「高い志」を持って積極的に取り組んだ結果であると考えられる。今後も生徒の「高い志」を涵養するための取組みを継続発展させていくことが必要である。 ・「担任の先生以外にも、気軽に相談できる先生がいる」という問いに対する肯定的な回答は、昨年度62%より上昇し68%であった。また、「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」という問いについては肯定的回答が90%であった。教育相談体制も含め、生徒指導を引き続き充実させていくことが大切である。 ・『文化祭』は、楽しく行えるように工夫されている」という問いに対する肯定的な回答は、昨年度の70%から大幅に上昇し86%となった。生徒会の委員会が中心となり、文化祭がより活性化された行事となるよう、新たな取組みを企画し実行した結果であると考えられる。今後も、生徒の「自主自律の精神」を育成していきたい。 <p>【保護者版】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携・進路指導については99%、リーダー育成については96%と、本校独自の事業に対して支持する回答は高い数値を示している。一方で、事業の認知度は高いとは言えないものもある。今後もそれぞれの事業の内容を深めていくとともに、周知に努めていく必要がある。 ・「生徒は、授業がためになると言っている」という問いに対する肯定的な回答は84%（昨年度85%）である。生徒、保護者の授業への信頼度を維持し、さらに高めるため、教員の授業力向上のための取組みの内容をより深めていくことが必要である。 	<p>第1回（平成30年6月2日（土））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テスト等について、引き続き情報の収集に努めてもらいたい。その上で、あまり振り回され過ぎないことが大切である。新テストの傾向として、大量の情報の中から必要なものを取捨選択して解答を組み立てるといった一面があり、それは本校生にとって普段の取組みと方向性が合ったものである。 ・現在、保健と英語でディベートに取り組んでいるが、テーマによっては他教科とのタイアップも検討する方がよい。 <p>第2回（平成30年10月6日（土））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学問発見講座、卒業生の研究室訪問等について、生徒が積極的に参加したくなるような案内の工夫をする方がよい。その一方で、参加人数が増えた場合の受け皿を考える必要もある。 ・『自主自律の精神』を深化させるための教育システムの再構築の指標については、ボランティア活動等への参加、部活動や行事委員の活動等への参加、学問発見講座や卒業生講座等への参加等、生徒が自主的、主体的に関わっているものへの参加を指標とすればよいのではないかと。 <p>第3回（平成31年2月16日（土））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の取組みがまた大きく進歩したと感ぜられる。課題研究は新しい学習指導要領にもつながるものであるから、教員は大変だと思うが、ぜひやりがいを感じて楽しんでもらいたい。 ・宿泊野外行事については、安全面に十分留意した上で、多様性を実感できるような活動を生徒に経験させてもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築</p>	<p>(1) 「グローバル」に視点を置いた取組み ア Brothers & Sisters プログラム及び事前学習の充実、海外宿泊野外行事及び事後学習の充実 イ 英語教育の内容のさらなる充実 (2) 「高い志」を涵養し持続させるための取組み ア 卒業生との連携の強化による取組みの充実 イ 課題研究の充実</p>	<p>(1) ア 長期留学生の受入れ、海外からの研修旅行生との交流、第1学年全員を対象とした大阪大学等の留学生との交流により、アジアを中心とした異文化理解や他国理解を深める。また、生徒の企画運営による事前学習を重ねて、宿泊野外行事へとつなげる。 第2学年の宿泊野外行事においては、学校交流とともに現地日本企業等の協力による取組みを重視する。また、事前学習や現地学んだ内容を課題研究等につなげる。 イ 4技能(5領域)を総合的に育成する英語教育の確立に向け、授業内容をさらに充実させるとともに、外部検定を導入する。また、英語イマージョンプログラムを継続発展させる。 (2) ア 本校卒業生の人材ネットワークを広げ、学問及び社会に対する興味・関心を高める取組みを充実させる。 ・卒業生講座及び学問発見講座を継続させる。また、「スプリングセミナー」等も含めて、卒業生によるキャリア教育に資する講演会や講座を実施する。 ・京都大学を中心に卒業生の研究室訪問を継続する。 ・関東方面への大学見学会を継続させる。その際の卒業生との連携を強化し、より広い視野で進路を考える場とする。 イ 大学の先生等の協力を得ることによって、2年生全員を対象として実施する課題研究の質を高める。</p>	<p>(1) ア 交流する大阪大学等留学生数50名以上(平成29年度57名) ・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90%以上(平成29年度91%) イ イマージョンプログラムへの参加生徒80名以上(平成29年度146名) ・参加生徒のアンケートにおける満足度90%以上(平成29年度95%) (2) ア キャリア教育に資する卒業生の講演会や講座の数6以上(平成29年度14) ・卒業生の研究室訪問5か所以上(平成29年度8か所) ・関東方面への大学見学会の参加生徒20名程度、支援する卒業生20名以上(平成29年度参加生徒19名、支援する卒業生30名) ・各取組みに対する生徒の満足度80%以上(平成29年度学問発見講座94%、卒業生講座94%、卒業生の研究室訪問100%、関東方面への大学見学会100%) イ 大学の先生等に課題研究や課題研究につながる授業に協力していた回数20回以上(平成29年度20回)</p>	<p>(1) ア パラグアイからの長期留学生1名を受け入れており、留学生が年末に全校集会で発表を行った。また、6月に台湾からの研修旅行生、10月にインドネシアからの研修旅行生を第1学年で受け入れ、12月にフィリピンからの研修旅行生を第2学年で受け入れた。Brothers&Sistersプログラムにおいては、第1学年の生徒が小グループに分かれて、主にアジアからの大阪大学留学生60名と交流した。(○) ・実施には多くの困難があったにもかかわらず、宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度は97%であった。(◎) イ SETも含め英語科教員が日々互いに授業見学を行った。英語イマージョンプログラムへの参加者は、1年生対象のI(12月実施)80名、2年生対象のII(1月実施)20名であり、満足度はI、IIそれぞれ98%、100%であった。(◎) (2) ア 24名の卒業生等を招いて学問発見講座や卒業生講座を実施し、そのうちキャリア教育に資する講座を10講座設けた。また、学問発見講座や卒業生講座以外に社会で活躍する卒業生の講演会を1回実施した。(◎) ・卒業生の研究室訪問を10か所実施し、84名の生徒が参加した。(◎) ・関東方面の大学見学会に9名の生徒が参加した。またその際、東京在住の卒業生30名との交流の機会も設けた。さらに、他校生徒との交流を行うこともできた。(○) ・各取組みに対する生徒の満足度は、学問発見講座94%、卒業生講座97%、卒業生の研究室訪問99%、関東方面への大学見学会100%(◎) イ 京都大学大学院文学研究科応用哲学・倫理学教育研究センター(CAPE)、大阪大学教授等のご理解を得て、課題研究や課題研究につながる授業に、1月までにのべ26回協力していただいている。(◎)</p>
<p>2 3 「二兎を追うたくましさ」を育成する「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築</p>	<p>(1) 「二兎を追うたくましさ」の育成とリーダーの育成 ア リーダー育成プログラムIの充実 イ リーダー育成プログラムIIの充実 ウ リーダー育成プログラムIIIの充実 (2) 「二兎を追うたくましさ」の育成と「自主自律の精神」の育成 ア 生活規律を高める精神の育成 イ 自学自習の精神の育成</p>	<p>(1) ア 各部・同好会の部長等(40人程度)に対して、リーダーとしての資質を高めていくプログラムを充実させる。リーダー論やコーチングの手法、人間関係トレーニング等についての講演等を実施する。 イ 各クラスHR委員(50人程度)に対して、HR行事・学年行事・学校行事等の企画力を育成するプログラムを充実させる。紛争解決能力やリーダーとしての資質を高める内容を重視する。 ウ 部活動に参加する部員を対象に、理学療法士による指導・支援を定期的実施する。健康を自己管理する能力を高めるとともに、高い志を持ち、諸活動において良い結果を出せるよう取り組む。 (2) ア 生徒が自らを律する力を高めることができるよう、遅刻に対する指導等を強化する。 イ 自学自習の精神の育成のため、担任、教科担当者、部顧問からの指導を徹底する。そのための支援として年間を通じて自習室を開設する。また、読書指導を推進する。</p>	<p>(1) ア リーダー育成プログラムIの実施回数10回以上(平成29年度11回) ・参加生徒のアンケートにおける満足度80%以上(平成29年度92%) イ リーダー育成プログラムIIの実施回数8回以上(平成29年度9回) ・参加生徒のアンケートにおける満足度80%以上(平成29年度90%) ウ リーダー育成プログラムIIIの実施回数10回以上(平成29年度12回) ・参加生徒数のべ900名以上(平成29年度903名) ・支援する理学療法士のべ180名以上(平成29年度190名) ・スポーツ振興センター手続き件数120件以下(平成29年度118件) (2) ア 遅刻数一人当たり平均年間2.0回以下(平成29年度2.7回) イ 一人当たりの平均読書量年間10冊以上(平成29年度11冊)</p>	<p>(1) ア 年間11回実施し、のべ878名の生徒が参加した。外部講師による講演の満足度は、87%であった。(○) イ 年間9回実施し、のべ351名の生徒が参加した。そのうち1回行った外部講師によるプログラムの満足度は、99%であった。(○) ウ 年間11回実施し、のべ878名の生徒が参加した。また、のべ168名の理学療法士に指導していただいた。なお、年間のスポーツ振興センターの手続き件数は86件である。(昨年度同期間の手続き件数は118件。)(○) (2) ア 年間の遅刻数は、一人当たり2.2回であり、昨年度より減少した(昨年度2.7回)。生徒の自覚をさらに高める取組みを継続して実施したい。(○) イ 一人当たりの平均読書量は、13冊であった。継続して読書指導を推進していきたい。(○)</p>
<p>4 教員の授業力向上のためのシステムの構築</p>	<p>(1) 授業力向上のためのシステムの充実 ア 教科会議の充実及び研究授業の実施 イ 教員相互の授業評価の充実 ウ 管理職による授業評価の充実 エ 「働き方改革」の推進</p>	<p>(1) ア 大学入学共通テスト、次期学習指導要領等の研究を進め、臨機に対応する。また、教科会議を授業力向上のための研修の場として位置付けるとともに、研究授業を行うことにより、教科としての授業力向上をはかる。 イ バディシステムを継続実施し、互見授業により教員の授業力を向上させる。 ウ 全教員の授業観察の際に、管理職によるアンケートを生徒に実施・分析し、授業アンケートとともに授業力を把握する材料とする。 エ 「働き方改革」の方策を検討するための核となる組織を立ち上げる。</p>	<p>(1) ア 全教科で研究授業年1回以上実施(平成29年度1回) イ 互見授業教員一人当たり平均年2回以上(平成29年度2.8回) ウ 生徒からの授業信頼度88%以上(平成29年度88%) エ 組織の会議年2回以上実施</p>	<p>(1) ア 全教科で、年1回以上研究授業を実施した。また、教科会議においては、教科指導の内容についての意見交換、授業アンケートの結果の分析等、授業力向上のための議論ができています。(○) イ 年間の互見授業は、教員一人当たり平均2.2回である。教員の授業力のさらなる向上のため、引き続き実施したい。(○) ウ 全教員の授業を観察し、各授業終了時に生徒へのアンケートを実施し、年2回実施している授業アンケートとともに教員が生徒の状況を把握し、授業改善策を考える材料とした。生徒からの授業信頼度は88%であった。(○) エ 「働き方改革」の方策を検討するための核となる組織を立ち上げ、年3回会議を行った。(○)</p>